

平成 27 年度事業報告書

平成 28 年 6 月

一般財団法人 出版文化産業振興財団

表 2

目 次

平成 27 年度事業報告	3
平成 27 年度収支報告書及び財産目録	39
平成 28 年度事業計画並びに予算	55
定款	63

平成 27 年度事業報告

(平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで)

<総務関係>

1. 理事会・評議員会の開催

第107回理事会

月日：5月14日 場所：日本出版クラブ会館

議題：第1号議案 「平成26年度事業報告案並びに決算報告案、監査報告」

第2号議案 「平成27年度事業について」

第3号議案 「評議員の一部交代」

◆牧 秀幸 評議員→高納勝寿 評議員（主婦と生活社 社長）

第59回評議員会

月日：6月3日 場所：日本出版クラブ会館

議題：第1号議案 「平成26年度事業報告案並びに決算報告案、監査報告」

第2号議案 「平成27年度事業について」

第3号議案 「評議員の一部交代」

◆牧 秀幸 評議員→高納勝寿 評議員（主婦と生活社 社長）

第60回評議員会並びに第108回理事会

月日：11月26日 場所：日本出版クラブ会館

議題：第1号議案 「専務理事の互選」

◆矢作孝志 専務理事 6月退任後、肥田理事長が専務理事を兼務
→小柳貴史 専務理事（トーハン）

第2号議案 「平成27年度上期の事業報告書並びに収支報告」

第3号議案 「平成27年度下期事業について」

第4号議案 「平成28年度子どもゆめ基金助成申請について」

第61回評議員会並びに第109回理事会

月日：3月25日 場所：日本出版クラブ会館

議題：第1号議案 「平成27年度事業報告概要並びに決算見通し」

第2号議案 「平成28年度事業計画案について」

第3号議案 「平成28年度収支予算案について」

（以上、役職は当時）

事業報告

1. 生涯学習事業

①第23期「JPIC 読書アドバイザー養成講座」開講

読書を通じた生涯学習・読書活動の推進のため、随時カリキュラムを更新し、常に「本」「読書」の魅力を掘り下げる多彩な講座内容を提供しています。

新カリキュラムとなって9年目の27年度も引き続き、監修にライター・書評家の永江朗氏を迎えました。執筆・講師陣には現在第一線で活躍されている方々にご協力いただきました。また、オプションツアーや希望者のみの装丁実習は、いずれも定員以上の申込があり、受講生の期待の高さがうかがえました。

平成27年7月から28年2月まで、6ヶ月にわたるレポート作成とスクーリングを経て、2月8日に行われた修了式では、作家の角田光代氏の記念講演（聞き手：永江氏）が行われ、「読書と私」と題して、読書の魅力や自身の読書体験についてお話いただきました。

修了式では、日本書店商業組合連合会 船坂良雄会長から激励の祝辞を賜りました。

第23期の修了生は92名です。新たなJPIC 読書アドバイザーが誕生し、修了生は累計約2,200名となりました。（受講料：一般58,000円 JPIC賛助会員53,000円）



活版印刷の工程 活字拾いを体験

＜スクーリング スケジュール一覧＞

講座	日程	カリキュラム	講師
スクーリング①	平成 27 年 7 月 3 日 (金)	開講式 総 論 JPIC 概要 開講記念講演 アドバイザー活動紹介	永江 朗 中泉 淳 沼野充義 都築照代 十松弘樹
スクーリング②	7 月 4 日 (土)	グループディスカッション 出版流通 イベント企画	永江 朗 内沼晋太郎
オプションツアー	7 月 5 日 (日)	見学会 (千代田図書館・ブックハウス神保町・印刷博物館・紙の博物館)	
オプションツアー	9 月 4 日 (金)	見学会 (国立国会図書館、日比谷図書文化館・新潮社・日販流通センター)、紙芝居講座 (童心社)	
スクーリング③	9 月 5 日 (土)	雑誌編集 印刷 グループディスカッション	雨宮秀樹 中西秀彦
スクーリング④	9 月 6 日 (日)	本の情報 本のつくりや装丁について 書評の読み方書き方	永江 朗 岡本幸治 豊崎由美
オプションツアー	10 月 30 日 (金) 10 月 31 日 (土)	見学会 (国立国会図書館) 〃 (教文館、LIXIL ブックギャラリー、森岡書店銀座店) 装丁実習 書評講座	永江 朗 岡本幸治 豊崎由美
スクーリング⑤	10 月 31 日 (土)	古書の世界の奥深さ 図書館の役割、国内外の図書館の具体例	樽見 博 大串夏身
スクーリング⑥	11 月 1 日 (日)	身近な古本の楽しみ方 書店、本の町づくり 電子書籍	岡崎武志 南陀楼綾繁 笈入建志 二階堂健二 植村八潮
オプションツアー	平成 28 年 2 月 6 日 (土)	見学会 (クレヨンハウス & 古書日月堂) 〃 (古書サンカクヤマ & 藍書店) 読書会ファシリテーター体験会	永江 朗 岡崎武志 中村 謙 細井 聖
スクーリング⑦	2 月 7 日 (日)	乳幼児～児童期の読書傾向 読書の歴史 グループディスカッション	佐々木宏子 津野海太郎
スクーリング⑧	2 月 8 日 (月)	文字・活字文化の振興策 まとめ 記念講演 修了式、懇親会	肥田美代子 永江 朗 角田光代

※スクーリング毎に 10～20 人ずつ「本のはなし」(実習)と「レポートについての説明」(永江朗氏による)を実施。

< 第 23 期受講生 属性一覧 >

男女計	男性	女性	年代別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	不明
100	14	86	100	0	12	15	31	30	11	1

地域別計	北海道	東北	関東	信越	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
100	3	6	54	5	0	15	8	4	1	4	0

職業別	図書館	書店	出版社	出版関係	取次会社	公務員
	28	12	4	2	5	4
100	主婦	自営業	教員	学生	会社員	その他
	20	0	5	1	5	14

②「JPIC 読書アドバイザークラブ(JRAC)」の活動支援

平成 5 年より開講している「JPIC 読書アドバイザー養成講座」の修了生は、平成 27 年度末で約 2,200 名となりました。修了生は自主運営組織「JPIC 読書アドバイザークラブ (JRAC(ジャラック))」を組織して、活発に活動しています。平成 21 年 11 月には、読書推進運動協議会創立 50 周年を記念した「野間読書推進特別賞」を受賞しました。

JRAC の主な活動としては、自主グループでの「学習会の開催」、「JRAC 通信の発行」「会員用ホームページでの情報交換」など、多岐にわたります。また全国には、身近な会員のつながりを活かす地域支部があり、交流しています。今年度は福岡支部が新たに設立され、15 支部となりました。

JPIC としてもさらに JRAC の活動機会を広げるため、「JPIC 読みきかせサポーター講習会」での読みきかせ講義講師、講談社「全国訪問おはなし隊」や「スミセイおはなしひろば」でのボランティア向け学習会での講師など、主催・協力事業での講師のほか、各種団体開催の講師依頼や問い合わせにも対応し、おはなし会の読み手も依頼しています。

また、『この本読んで!』では毎号、JRAC 会員がおはなし会プログラムや新刊紹介などを担当し、読者から人気のコーナーとなっています。(JRAC 会員：653 名、27 年度末現在)

③各種読書講習会

JPIC 読みきかせサポーター講習会

読みきかせボランティアの育成を目的として、「JPIC 読みきかせサポーター講習会」を平成 11 年より開催しています。絵本作家の講演と、JPIC 読書アドバイザーによる実技講習で、すぐ活動に活かせる講習会と好評。リピーターも多く参加しています。平成 23 年度より一般社団法人生命保険協会の協賛をいただき、一層内容を充実して展開しています。



(実施：17ヶ所 参加者：1,544名、参加費：1,000円)

■協賛：一般社団法人生命保険協会

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

	日程	開催地	会場	特別講演講師	申込者数	参加者数
1	7月12日	札幌市	北農健保会館	浜田桂子	111	95
2	7月18日	高知市	高知城ホール	ひろかわさえこ	68	59
3	8月1日	奈良市	奈良商工会議所	ひろかわさえこ	115	93
4	8月22日	横浜市	AP 横浜駅西口	山口マオ	141	108
5	8月29日	岐阜市	サンレイラ岐阜	浜田桂子	102	80
6	9月12日	高松市	高松テルサ	いとうひろし	100	87
7	9月27日	金沢市	フレンドパーク石川	とよたかずひこ	64	58
8	10月10日	山形市	山形ビッグウイング	高島 純	102	89
9	10月24日	大阪市	CIVI 北梅田研修センター	ひろかわさえこ	202	139
10	11月8日	宮崎市	JA AZM ホール	山口マオ	104	95
11	11月23日	盛岡市	アイーナ	高島 純	107	98
12	11月29日	渋谷区	長井記念ホール	とよたかずひこ	278	150
13	12月5日	鳥取市	とりぎん文化会館	いとうひろし	44	38
14	1月16日	広島市	広島国際会議場	とよたかずひこ	145	116
15	1月31日	長崎市	長崎県建設総合会館	長野ヒデ子	88	76
16	2月20日	日立市	日立シビックセンター	長野ヒデ子	79	62
17	2月27日	さいたま市	JA 共済埼玉ビル	浜田桂子	140	101
合計					1,990	1,544

読みきかせサポーター実践講座～グループワーク編

21年度から、読みきかせ活動の経験者を対象にスキルアップのための講座を開催しています。講義とグループワークを行い、おはなし会の運営方法、子どもの読書推進の現状などを幅広く学び、地域の読書推進活動の核となる人材を育成するための講座です（実施：16会場、参加者：1,413名、参加費1,000円）。26年度



から、グループワーク編として、より参加者間の交流を図る内容で、平成27年度は、全国16会場で開催をしました。

■協賛：一般社団法人生命保険協会

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

	日程	開催地	会場名	特別講師講演	申込者数	参加者数
1	6月27日	新宿区	研究社英語センター	阿部 恵	233	176
2	7月11日	神戸市	兵庫県民会館	佐々木宏子	152	125
3	7月18日	長野市	JA長野県ビル	藤田浩子	140	124
4	8月22日	新潟市	朱鷺メッセ	阿部 恵	64	62
5	8月29日	青森市	アスパム	佐々木宏子	68	64
6	9月12日	福井市	福井県国際交流会館	佐々木宏子	61	54
7	9月19日	京都市	京都テルサ	阿部 恵	141	119
8	10月3日	前橋市	ベイシア文化ホール	藤田浩子	82	68
9	10月24日	松江市	松江テルサ	佐々木宏子	51	50
10	11月7日	福島市	コラッセふくしま	阿部 恵	77	66
11	11月21日	佐賀市	佐賀県教育会館	阿部 恵	86	74
12	12月12日	下関市	海峡メッセ下関	藤田浩子	104	92
13	1月17日	大津市	ピアザ淡海	藤田浩子	156	134
14	1月24日 ※大雪	鹿児島市	鹿児島商工会議所	阿部 恵	52	12
15	2月13日	松山市	ひめぎんホール	藤田浩子	140	123
16	2月27日	大分市	全労済ソレイユ	佐々木宏子	88	70
合 計					1,695	1,413

平成27年度末で「サポーター講習会」は累計384回、延べ参加者36,402名となりました（「JPIC読みきかせサポーター講習会」、「読みきかせサポーター実践講座～グループワーク編」のほか過去開催の「読書サポーター講習会」、「子どもの本講習会」を含みます）。

作者と語ろう！

21年度から始まった中高生を中心とした10代向けの読書会は、人気の作家の一冊の本について意見を交換し合い、作品への理解を深め、読書の幅を広げることがを期待して開催しています。



二部構成で、第一部は課題図書を中心に、自由に本の話をする読書会、第二部は、作家の講義と質疑応答としています。毎回、作家との会話を楽しみにしている参加者が多く、熱心にメモを取り、質問をする様子が見られました。

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

	日程	開催地	会場名	作家	申込者数	参加者数
1	6月7日	千代田区	三省堂書店神保町本店 2階 UCC カフェコンフォート	辻村深月	81	51
2	8月30日	京都市	メルパルク京都 4階会議室	森見登美彦	90	52
3	1月31日	博多市	博多バスターミナル 9階大ホール	朝井リョウ	62	55
合 計					233	158

10代から出会う翻訳文学案内

東京大学教授・沼野充義先生をホストに、第一線で活躍する作家・翻訳者をゲストに迎え、10代の若者と、若者に本を手渡す立場の方々を対象に、〈世界文学〉の視点で新しい読書の提案を行う講座を4回連続で開催しました。



※平成25年からスタートした過去3回のシリーズは、すでに『世界は文学でできている』『やっぱり世界は文学でできている』『それでも世界は文学でできている』（いずれも沼野充義編著 光文社刊）として書籍化されています。

■協力：東京大学現代文芸論研究室、一般財団法人光文文化財団

■協賛：光文社

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

	日程	開催地	会場名	ゲスト	申込者数	参加者数
1	11月28日	文京区	東京大学	張 競	102	66
2	1月31日	文京区	東京大学	川上弘美	263	205
3	2月27日	千代田区	ソラシティ	小野正嗣	170	101
4	2月28日	文京区	東京大学	阿部賢一、柳原孝敦 ほか	当日	160
合 計						532

④さまざまな層への読書アプローチ

「辞書を読む」プロジェクト

25年度より「辞書・日本語の魅力」を積極的に発信する「辞書を読む」プロジェクトをスタートさせ、店頭活性化、読書推進へとつなげています。

第4回目となる書店店頭での「辞書を読む」ブックフェアでは、新たに日本漢字能力検定協会の協賛を得ました。これにより辞書出版社を中心とした出版社12社、取次会社の協賛・協力のもと、



全国書店でフェアを開催しています。今回からの試みとして、特別協力店、一般店と2つの開催形態を設け、各書店の規模等に合わせた開催を可能にしました。特別協力店は店頭でフェアを行う事を条件に、朝日新聞での告知紙面へ店舗名を掲載。また拡材も簡易的な一般店用、配布拡材のある特別協力店用と内容を分けて作成しています。連動



企画には、書店店頭の「飾り付け」コンクール、一般読者を対象とした「辞書川柳」の2つのコンクールを開催。(共に28年5月8日(日)〆切)。

(協賛：岩波書店、旺文社、KADOKAWA、学研、くもん出版、三省堂、集英社、小学館、大修館書店、日本漢字能力検定協会、ベネッセコーポレーション、光文社／ 特別協賛：大日本印刷)

また、子どもゆめ基金助成事業として全国にて関連イベントを開催しました。

	日程	開催地	会場名	講師、登壇	参加者数
1	7月27日	京都市	京都勧業館 (みやこめっせ)	沖森卓也 サンキュータツオ	62組 82名
2	8月5日	福岡市	福岡国際会議場	サンキュータツオ	30組 65名
3	8月7日	山形市	山形ビッグウィング	柏野和佳子	21組 42名
4	8月10日	名古屋市	名古屋市公会堂	深谷圭助	58組 125名
5	12月6日	文京区	文京シビックホール	深谷圭助 柳家喬之助 菊池健一	134組 318名
6	3月19日	新宿区	安与ホール	金田一秀穂	101組 201名

大学生のよみとも倶楽部

「大学生のよみとも倶楽部」は、大学生によく読まれている本の作家を講師に招き、その作家の著書について小グループに分かれて自由に意見を交わします。大学生が講師にインタビューをする時間も取り、作品の誕生秘話や作家本人の読書体験など、話題に上った作品や作家の著書をより深く楽しむことのできる話を聴くことができました。27年度は、東京都で道尾秀介氏を迎えて開催しました。



(共催：大学生協東京事業連合、読売新聞社)

	日程	開催地	会場名	作家	申込者数	参加者数
1	7月26日	杉並区	大学生協杉並会館	道尾秀介	92	49

2. 調査研究事業

「JAPAN LIBRARY」事業の一環として実施。

※P.22 ⑦内閣府 国際広報「JAPAN LIBRARY」への協力をご参照ください。

3. 情報提供事業



「JPIC NEWS LETTER」の発行

賛助会員の皆様に毎月1回、財団事業の報告のため「JPIC NEWS LETTER」を発行しています。掲載内容についてのお問い合わせ、財団運営に対するアドバイスをいただくなど財団事業へ反映させています。27年度中に9号を発行し、通巻177号となりました。



JPIC ホームページ

財団事業の活動を幅広く紹介し、活動スケジュールなどをいち早く提供するため平成10年2月よりホームページを公開しています (<http://www.jpic.or.jp/>)。

JPIC 事業だけでなく、本に関するイベント情報も掲載。特に4、5月の訪問数が多く、年度当初に公開する「JPIC 読書アドバイザー養成講座」など講習会予定をホームページで確認する方が増えています。

また、講習会・イベントの参加申込ツールとして web との連動が好調です。web 申込者には「JPIC 読書推進メールマガジン」を配信し、全国のボランティアに講習会やイベント情報等を随時発信しています。(27年度末 メールマガジン読者：11,611名)

季刊誌『この本読んで！』の発行

JPICの読書推進運動への協力者との情報交換・情報提供のため、季刊誌「この本読んで！」を平成13年11月に創刊（事業協力：博報堂）。27年度に創刊55号を迎えました。

絵本や読みきかせ活動の情報を中心に、〈JPIC 読書アドバイザー〉選・おはなし会プログラムや毎号100冊の新刊絵本の紹介など、おはなし会に役立つ多彩な内容を見やすいカラー誌面で構成しています。毎号の表紙と中綴じ絵本は絵本作家の描きおろし作品を使用。また、読者から要望が多かった学校図書館や発達障害についての連載も掲載中です。

56号からは、メディアパルに発売代行を委託し、書店での販売を可能にすることで、より多くの読者の手元に届けられるようにしました。

読書ボランティアの購読とともに、公共図書館・学校図書館からの購読が多く、9,500部発行しています。



55号



56号



57号



58号

発行形態	発行：年4回（5月、8月、11月、2月） 形態：A4変形・88ページ	
掲載記事	55号 2015年夏号	特集：戦後70年企画 戦争と平和を伝える子どもの本／おはなし会の舞台裏 こんにちは！絵本作家さん あべ弘士さん
	56号 2015年秋号	特集：『どうぞのいす』の柿本幸造さん 生誕100年／赤ちゃんと1・2・3歳の絵本 こんにちは！絵本作家さん ひろかわさえこさん
	57号 2015年冬号	特集：絵本から読みものへ／『100万回生きたねこ』をどう読むか こんにちは！絵本作家さん 五味太郎さん
	58号 2016年春号	特集：かこさとしさん90歳90冊／2015年の絵本を振り返る こんにちは！絵本作家さん 山本祐司さん
購読料	<ul style="list-style-type: none"> ・定期購読（4冊）：4,320円（送料無料で税込） ・バックナンバー：1,200円（送料・税込） 	

4. 交流協力事業

①地域読書環境整備事業

書店も図書館もない地域に読書機会を提供する「地域読書環境整備事業」で、自治体のモデル読書施設開設・運営に協力しています。25年度末に営業しているのは北海道礼文町「Book 愛ランドれぶん」で、平成25年10月に開設20周年を迎えました。

これまでの設置は、5市町村で、大分県耶馬溪町「わかば」（平成4年5月開設・平成20年3月31日閉店）、岩手県大船渡市「ブックワールド椿」（平成4年10月開設・平成23年3月閉店、開設時は三陸町）、北海道礼文町「Book 愛ランドれぶん」（平成5年10月開設）、福島県飯舘村「ほんの森 いいたて」（平成7年2月開設、平成23年6月15日休業）、長野県東御市「ブック童夢みまき」（平成8年7月開設、開設時は北御牧村・市町村合併により平成23年度で閉店）です。

東京電力福島第一原子力発電所の事故により全村避難している飯舘村とは、避難先での読書環境づくりに協力しています。※具体的な活動は、「⑤東日本大震災被災地支援」の項目をご参照ください。

②東淀川区絵本読み聞かせ事業

大阪市東淀川区からの受託事業として、25年度から開始し、3年目を迎えました。当事業では、大阪府書店商業組合とおはなしボランティア「とことこ」・JPIC読書アドバイザークラブ（JRAC）関西支部・JPICが協働し、地域における子どもたちの読み聞かせ体験

の機会を数多く作り、継続させることにより、家庭での読み聞かせの定着を目指し、親子のふれあいの場を増やすことを目的としました。

27年度は、①地域の登録ボランティアの養成、②ボランティア派遣の拡充、③事業で活用する寄贈絵本の募集（「絵本バンク」）④主催イベントの実施、⑤区内各地域での読み聞かせ活動の活発化などに力を入れました。

平成28年2月21日（日）には、「第3回 東淀川えほんまつり」を開催しました。絵本作家 長野ヒデ子さんによるおはなし会、近畿地区で活躍する講師によるわらべうたや読み聞かせの時間、絵本展、公募（区内）イラスト・写真の展示、事業報告などを行い、区の内外的からの多数の来場者が、絵本の世界を楽しみました。



	イベント	日程	会場	参加者数/ 寄贈冊数
1	ボランティア養成講座 ステップアップ編①	6月26日	区役所	23名
2	絵本バンク・第1期	7月2日～7日	区役所	139冊
3	ボランティア養成講座 ステップアップ編②	7月28日	区民会館	27名
4	絵本バンク・第2期	10月19日～21日	区役所出張所	225冊
5	東淀川区絵本読み聞かせ活動 交流会	12月1日	区役所	28名
6	シニアのための読み聞かせ講座	12月11日	区役所	14名
7	第3回東淀川えほんまつり 長野ヒデ子さん講演会 岩出景子さん・手あそび 鈴木健司さん・おはなし会 絵本・写真イラスト展示	2月21日	区民ホール	301名 120名 130名 延べ360名

●登録ボランティア数…84名

●ボランティア派遣回数…89回 / 子ども 2,124名、大人 2,086名参加（延べ数）

●絵本バンク寄贈数…517冊

③「書店大商談会」への協力

前年度の好評を受け、9月15日、札幌市・札幌パークホテルにて、第二回「北海道書店大商談会」を開催しました（出展社：109社110ブース、来場書店人数：238名、商談成立：1,603件、34,685,604円）。

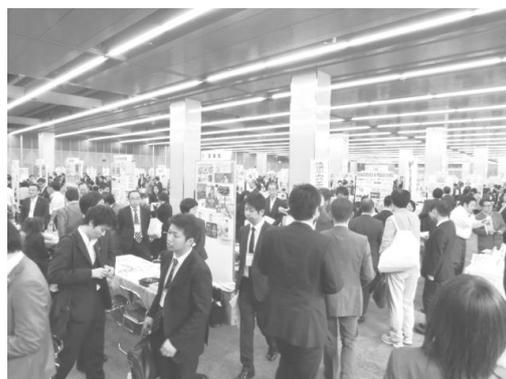


前日にトーハン会が、当日夕方には日販会がそれぞれ北海道総会を開催し、書店・出展社が当商談会に参加しやすい環境を整えるなど、まさに、道内出版業界挙げての一大イベントとなりました。各ブースでは熱心な商談が行われ、隣接するイベント会場では出版社による「文庫の増売勉強会」を開催し、定員を超過する参加がありました。

主催：同実行委員会

実行委員長：田中雄一・フジヤ書店社長 事務局協力：JPIC

10月19日、東京ドーム・プリズムホールにて、第六回「書店大商談会」を開催しました（出展社：244社・250ブース、来場書店人数：820名、商談成立：4,332件、90,578,246円）。



第五回と比較し出展社数が更に増え、過去最大規模での開催となりました。当日は来場書店人数に出展社、取次会社スタッフ、その他（見学）を合わせると2,433名の業界関係者の集う一大イベントとなりました。

これまでサロン形式で行っていたコミックコーナーは、出版社ごとのブース出展に変更したことで更に活発な商談が行われました。その他、著名作家のサイン本を展示・受注するサイン本コーナーやJPIC企画の書店員向け勉強会、毎年好評の児童書スタンプラリーなど各種企画によって熱気あふれる会となりました。

主催：同実行委員会（各販売会社書店会、各販売会社、日本児童図書出版協会、日本書店商業組合連合会、東京都書店商業組合、日本出版取次協会）

実行委員長：奥村弘志・南天堂書房社長 事務局協力：JPIC

関西では11月13日、大阪市・グランフロント大阪にて、「BOOK EXPO 2015 秋の陣 ～挑め！書店人～」を開催しました（出展：231社、234ブース、来場書店：1,021名、商談

成立：6,129 件、91,143,283 円)。

五回目を迎える「BOOK EXPO」は、過去最高の出展社数で書店人を迎えました。毎年恒例の OsakaBookOneProject (OBOP) 選定作品著者の講演会や、人気絵本作家のサイン会、JPIC 企画の書店員向けトークイベント等、来場書店人が楽しめるイベントを行いました。



また、各ブースや休憩スペースでも熱心な商談が行われ、国内最多の書店人が集う、活気あふれる商談会になりました。

主催：同実行委員会、世話人会代表：肥田美代子・出版文化産業振興財団理事長、
実行委員長：堀博明・堀 廣旭堂専務取締役 事務局協力：JPIC

④東日本大震災被災地支援

◆福島県飯舘村支援

原発事故により全村避難している福島県飯舘村に対して、読書環境の充実のための支援を続けています。

飯舘村では、家族が世代ごとにばらばらに避難している状況の中、子育て世代の支援事業に力を入れています。



平成 27 年度は、津田塾大学ピースアートプロジェクトとの協働で、10 月に影絵ワークショップ（於：飯舘村役場飯野出張所）を実施し、子どもたちと影絵を使って未来の姿を描きました。

また、新生児に読みきかせ用の絵本をプレゼントする「ほんの森 ファーストブック」事業も継続して行っています。JPIC は、27 年度、53 名に 106 冊の絵本を提供いたしました。

◆「子どもたちへ〈あしたの本〉プロジェクト」

平成 23 年 5 月から「子どもたちへ〈あしたの本〉プロジェクト」として、日本国際児童図書評議会 (JBBY)、日本出版クラブとともに東日本大震災被災地の子どもたちの読書活動支援を展開してきました。平成 27 年度は、主な活動として、①岩手県陸前高田市の仮設図書館「にじのライブラリー」の運営、②宮城県気仙沼市・石巻市での「図書館バスの定期巡

回」、③作家らの被災地訪問、④支援の必要な子どもたちへの絵本や玩具寄贈などを行いました。被災地に訪問した作家は、講演やワークショップを実施し、たくさんの人々と楽しい時間を共有しました。また、震災以降支援を続けてきた福島県飯舘村へは、津田塾ピースアートプロジェクトと協働で影絵ワークショップを行いました。

震災から5年が経過し、当プロジェクトは平成27年度をもって終了することとなりましたが、JPICとして、引き続き東日本大震災被災地支援を続けていきます。



【平成27年度 子どもたちへくあしたの本>プロジェクト 活動カレンダー】

月 日	事業・活動	備考	場所・会場
9月12日	鈴木のりたけさん 移動図書館	30名参加	気仙沼公園仮設住宅・集会所(気仙沼市)
9月13日	鈴木のりたけさん 移動図書館	29名参加	ヤマト屋書店中里店(石巻市)
9月26日	児島なおみさん 移動図書館	28名参加	気仙沼公園仮設住宅・集会所(気仙沼市)
9月27日	児島なおみさん 移動図書館	55名参加	イトーヨーカドー石巻あけぼの店(石巻市)
9月27日	山本祐司さん 那須田淳さん 子ども本まつり in 福島	153名参加	福島県立図書館(福島市)
10月3日	津田塾ピースアートプロジェクト 小規模イベント	28名参加	飯舘村役場飯野出張所(福島市)
11月7日	佐藤健二さん(ブロンズ新社) 小規模イベント	30名参加	にじのライブラリー(陸前高田市)
11月8日	きむらゆういちさん 子ども本まつり in 岩手	65名参加	マリオス(盛岡市)

11月14日	飯野和好さん 富安陽子さん 子ども本まつり in 宮城	198名参加	TKP 仙台カンファレンスセンター(仙台市)
11月15日	飯野和好さん 移動図書館	74名参加	イトーヨーカドー石巻あけぼの店(石巻市)
12月25日	ちゅうりっぷ文庫 小原風子さん すとうあさえさん 攪上久子さん 小規模イベント	22名参加	野馬追通り銘醸館一番蔵 (南相馬市)
12月26日	佐藤健二さん(ブロンズ新社) 移動図書館	26名参加	気仙沼公園仮設住宅・集会所(気仙沼市)
2月11日	飯野和好さん 小規模イベント	80名参加	陸前高田市コミュニティホール (陸前高田市)

※27年度は、大規模イベント3回、小規模イベント4回、移動図書館イベント6回を実施。

5. 受託事業・業務等

①読書普及活動協力事業

読書普及活動の活性化に向けて各社が取り組む各事業に対し、「JPIC 読書アドバイザー」「JPIC 読みきかせサポーター」「地元の読書サークル」にボランティア参加の募集を呼びかけ、読みきかせを開催する会場への読み手のコーディネートを行っています。

ア) 全国訪問おはなし隊

講談社が創業 90 周年読書推進事業として平成 11 年 7 月よりスタートさせた「全国訪問おはなし隊」は、平成 27 年 9 月から 9 巡目を走行中です。全国の保育園、幼稚園、小学校、図書館、公民館、児童館、書店などをキャラバンカーで巡回し、地域の読書ボランティアの協力による絵本の読みきかせを通じて、子どもたちに本との出会いを提供しています。(27 年度：1,200 会場 累計実績：19,314 会場)

イ) おはなしマラソン

日本出版販売は、子どもたちに物語の楽しさを伝え未来の読者を育てていこうという試みから、書店読みきかせ会「おはなしマラソン」を平成 11 年 10 月より、全国で開催しています。JPIC では、ボランティアコーディネートの役割を担っています。(27 年度協力 14 店舗、累計実績：693 書店)

ウ) 取協読書推進事業「読みきかせ会」

日本出版取次協会は、平成 12 年秋に創立 50 周年記念行事として「読みきかせ会の開催」を実施しました。平成 12 年度からの成果を踏まえて本年度も「読書推進」「書店店頭

の活性化・増売」「第4土曜日は、こどもの本の日」の拡充のため、書店における読みきかせ会を開催しました。(期間：平成27年12月12日～平成28年2月7日の毎週土・日曜日、JPIC コーディネート担当実施書店：41 書店)

②「スミセイおはなしひろば」への協力

公益財団法人住友生命健康財団は、平成13年度より、読書をとoshした子どもの健全育成を目的として、子どもたちが「おはなしや本の楽しさ」に出会う機会をつくる「スミセイおはなしひろば」を実施しています。

その一環である「おはなしひろばキャラバン」は、希望する保育園・幼稚園に、オリジナル絵本をプレゼントし、大型絵本や紙芝居を交えたおはなし会を届けるものです。読み手に地域の読みきかせサークルをコーディネートしておはなし会を開催。保護者や地域の方のご参加も見られ、家族・地域間のふれあいのきっかけをつくる役割も担っています。

27年度は3地域(6～7月愛知県 名古屋市周辺、9月北海道 札幌市、11月奈良県 奈良市)で、14,151名の園児が参加しました(27年度実績：160施設、累計実績：1,855施設)。

③朝日新聞社への協力

◆「オーサー・ビジット・プロジェクト」

「オーサー・ビジット」は、朝日新聞社の読書推進活動として13年目を迎え、これまでに全国の小・中・高等学校374校へ訪問をいたしました。

子どもたちに人気の作者が教室を訪問し、作者独自のユニークな授業や生徒との会話により、読書意欲を喚起することを目的としています。

平成27年度は、ベルマーク運動に参加している学校に費用を一部負担いただくベルマーク版も含め、全国6校に訪問し、子どもたちの笑顔あふれる授業を展開しました。

JPICは事務局として協力し、応募校受付や作家と学校の訪問スケジュール管理・旅程作成などの役割を担っています。



撮影：吉永考宏

※ベル＝ベルマーク版 3 回

	訪問日	訪問地	学校名	作家名
1	9月18日(金)	広島県	広島市立似島小学校	宮西達也(絵本作家)
ベル	10月26日(月)	愛知県	豊橋市立旭小学校	あさのあつこ(作家)
2	11月24日(火)	宮崎県	宮崎第一高等学校	森 絵都(作家)
3	11月26日(木)	東京都	目黒区立東山中学校	池上 彰(ジャーナリスト)
ベル	12月17日(木)	茨城県	日立市立坂本中学校	尾木直樹 (教育評論家・法政大学教授)
ベル	1月18日(月)	鹿児島県	鹿児島市立石谷小学校	長谷川義史(絵本作家)

④「第 49 回造本装幀コンクール」への協力

一般社団法人日本書籍出版協会、一般社団法人日本印刷産業連合会が主催する「造本装幀コンクール」は、49回目を迎えました。

「第 49 回造本装幀コンクール」(募集期間：平成 27 年 1 月 31 日～3 月 31 日)は、148 者 349 作品の応募がありました。5 月 12 日に審査会を行い、文部科学大臣賞、経済産業大臣賞、東京都知事賞をはじめとする各賞(全 22



賞)を決定しました。入賞作品及び全出品作品は第 22 回東京国際ブックフェア(7 月 1 日～4 日、東京ビッグサイト)内の特設ブースにて展示され、7 月 3 日には同ビッグサイト内会議棟にて授賞式を開催しました。また、入賞作品は、ドイツのライプツィヒで開催される“世界で最も美しい本コンクール”に日本を代表して出品した後、フランクフルトブックフェアで展示されます。

⑤生命保険協会 読みきかせによる“家族のきずな”推進活動

生命保険協会は、平成 20 年度より、「読みきかせを通じた“家族のきずな”推進活動」を展開し、一般公募による絵本コンテストや施設・団体への絵本寄贈を行ってきました。27 年度は、第三次 3 カ年計画の 2 年目として、JPIC 読みきかせ講習会への協賛と読みきかせボランティア団体の支援のため「“家族のきずな”読みきかせ会セット」の頒布を行いました。

⑥「21 世紀活字文化プロジェクト」協力

読売新聞社が主管する「活字文化推進会議」主催の、全国各地の大学生による書評合戦「全

国大学ビブリオバトル 2015 首都決戦」に事務局として協力しました。914名の予選出場者から30名が進出した決勝には、450名の観客が集まりました。

⑦内閣府 国際広報「JAPAN LIBRARY」への協力

内閣府では、平成26年度政府広報予算において、＜日本の魅力発信に資する書籍の翻訳出版事業＞が開始しました。日本の優れた書籍を英訳出版し、海外の大学図書館等を中心に寄贈する事業です。対象書籍は、各界各分野の第一人者である研究者・専門家の民間有識者7名からなる選定委員会にて選ばれました。

27年度も、NTTアドと合同で事務局として事業の進行を担うとともに、JPICは版元となり、JAPAN LIBRARYシリーズ第二弾として、3月27日に5タイトルを翻訳出版しました。発行書籍は、41カ国1000カ所以上の大学図書館を中心とした研究機関、公共図書館等へと寄贈しました。

27年度 JAPAN LIBRARY 発行書籍（発行元：JPIC）

The Building of Horyu-ji: The Technique and Wood that Made It Possible

原書：法隆寺を支えた木 西岡常一／小原二郎（NHK出版）

Essays on the History of Scientific Thought in Modern Japan

原書：昭和前期の科学思想史 金森修編（勁草書房）※抄訳

Fifteen Lectures on Showa Japan: Road to the Pacific War in Recent Historiography

原書：昭和史講義—最新研究で見る戦争への道 筒井清忠編（筑摩書房）

Kabuki, a Mirror of Japan: Ten Plays that Offer a Glimpse into Evolving Sensibilities

原書：歌舞伎の中の日本 松井今朝子（NHK出版）

The People and Culture of Japan: Conversations Between Donald Keene and Shiba Ryotaro

原書：日本人と日本文化 ドナルド・キーン／司馬遼太郎

『ドナルド・キーン著作集 第九巻世界のなかの日本文化』（新潮社）所収



3月 AAS（アジア学会）年次総会にてブース出展

※左記タイトルは、電子書籍化を予定。国内外での商業配信、図書館配信を行います。

26年度発行書籍のうち、以下タイトルも今年度配信を開始しました。

Flower Petals Fall, but the Flower Endures: The Japanese Philosophy of Transience

原書：花びらは散る 花は散らない—無常の日本思想— 竹内整一 (KADOKAWA)

Listen to the Voice of the Earth: Learn about earthquakes to save lives

原書：地球の声に耳をすませて 地震の正体を知り、命を守る 大木聖子 (くもん出版)

Tree-Ring Management: Take the Long View and Grow Your Business Slowly

原書：リストラなしの「年輪経営」 塚越寛 (光文社)

さらに、書籍を「読者の手元に」届けるべく、事業 PR にも力を入れました。9月には、オランダ・ライデン大学で行われた EAJRS (日本資料専門家欧州協会) 年次総会に、3月には、米国シアトルで行われたアジア学会年次総会に、ブース出展しました。海外在住の日本関係者における当事業の認知度アップにより、発行書籍への関心が高まり、さらにその先の読者へ届ける展望を得ることができました。

その他、当事業への新たな視点の追加、可能性の模索もしています。8月には、米国オハイオ州／ペンシルバニア州を訪問、各地の主要大学において日本研究者・司書の方々に、日本研究・文化普及の現状をヒアリングしました。10月には、ドイツ・フランクフルトブックフェアに参加、海外の出版社からの発行も視野にいれて始動しました。その際、マインツ・Stiftung Lesen 読書基金にも訪問、読書推進活動について、日独財団同士、情報交換をするとともに、今後協力事業を行う可能性を探ることができました。

スケジュール1

スケジュール2

スケジュール3

スケジュール4

スケジュール5

一般財団法人出版文化産業振興財団 理事・監事・顧問

理事長	肥田美代子（文字・活字文化推進機構理事長）
副理事長	相賀昌宏（日本書籍出版協会理事長、小学館社長）
副理事長	石崎 孟（日本雑誌協会理事長、マガジンハウス社長）
副理事長	藤井武彦（日本出版取次協会会長、トーハン社長）
副理事長	船坂良雄（日本書店商業組合連合会会長、東京都） ※運営担当
専務理事	小柳貴史
常務理事	高井昌史（紀伊國屋書店社長）
常務理事	西村俊男（日書連副会長、新潟県）
常務理事	平林 彰（日本出版販売社長）
常務理事	川上浩明（トーハン専務取締役）
常務理事	野間省伸（講談社社長）
常務理事	堀内丸恵（集英社社長）
理事	篠 弘（日本文藝家協会理事長）
理事	今野由梨（生活科学研究所所長）
理事	高橋基陽（光文社会長）
理事	荻野善之（主婦の友社社長）
理事	松井清人（文藝春秋社長）
理事	大竹深夫（大阪屋社長）
理事	風間賢一郎（中央社社長）
理事	河野隆史（日教販相談役）
理事	安西浩和（日本出版販売専務取締役）
理事	中川清貴（丸善 CHI ホールディングス社長）

理事 松信 裕（有隣堂社長）
理事 柴崎 繁（日書連副会長、東京都）
理事 藤原 直（日書連副会長、宮城県）
理事 本間 守世（日書連副会長、東京都）

以上 26 名

監事 古岡 秀樹（学研ホールディングス取締役）
監事 能勢 正幸（公認会計士）

以上 2 名

顧問 上瀧 博正（トーハン元顧問）

以上 1 名

平成 28 年 3 月 31 日現在

一般財団法人出版文化産業振興財団 評議員

秋田 貞美 (秋田書店社長)

高杉 昇 (家の光協会代表理事専務)

宮本 哲男 (岩波書店取締役)

関谷 幸一 (KADOKAWA取締役)

高納 勝寿 (主婦と生活社社長)

清水 康史 (昭文社取締役)

松田 宏 (新潮社取締役相談役)

増田 義和 (実業之日本社会長)

大塚 茂 (世界文化社専務取締役)

鈴木 一行 (大修館書店社長)

鹿谷 史明 (ダイヤモンド社社長)

岩淵 徹 (徳間書店会長)

溝口 明秀 (NHK出版特別主幹)

伊藤富士男 (農山漁村文化協会専務理事)

大橋 一弘 (博文館新社社長)

奥村 傳 (ポプラ社代表取締役)

斎藤 健司 (日本書籍出版協会常任理事 読書推進委員会委員長、金の星社社長)

出版社：以上 17 名

齊藤 隆巳 (日本雑誌販売社長)

条井 健 (日本地図共販社長)

谷川 直人 (トーハン取締役)

加藤真由美 (トーハン広報室長)

萬羽 励一 (日本出版販売仕入部長)

岩本 幸子 (日本出版販売人事部長)

古市恒久（大阪屋支社長）
大谷敏夫（中央社常務取締役）
小野田裕（日教販取締役）

取次会社：以上9名

田島敏幸（日書連理事、東京都）
小林洋（日書連理事、東京都）
筒井正博（日書連理事、神奈川県）
江崎直利（日書連理事、静岡県）
後藤雅利（日書連理事、山梨県）
亀井忠雄（三省堂書店社長）

書店：以上6名

石川博史（公文教育研究会常務取締役）
北島義斉（大日本印刷副社長）
大湊満（凸版印刷相談役）
濱田博信（日本図書普及社長）

一般：以上4名

以上36名

平成28年3月31日現在

平成 27 年度賛助会員(277 社)

平成 28 年 3 月 31 日現在

出版社			
あかね書房	協同出版	晋遊舎	ディスカヴァー・トゥエンティワン
秋田書店	共立出版	鈴木出版	東京書籍
朝倉書店	金の星社	スタート出版	東京大学出版会
朝日新聞出版	くもん出版	ステレオサウンド	東京堂出版
明日香出版社	研究社	すばる舎	東京ニュース通信社
飛鳥新社	建帛社	星雲社	童心社
あすなろ書房	コアミックス	聖教新聞社	東洋経済新報社
アリス館	好学社	静山社	徳間書店
家の光協会	恒星社厚生閣	青春出版社	ドレミ楽譜出版社
医学書院	佼成出版社	西東社	南江堂
池田書店	講談社	成美堂出版	南山堂
医歯薬出版	交通新聞社	聖パウロ女子修道会	二玄社
一声社	交通タイムス社	誠文堂新光社	二宮書店
1 万年堂出版	光文社	税務研究会	日本ヴォーグ社
今人舎	小峰書店	世界思想社教学社	日本カメラ社
岩崎書店	ゴルフダイジェスト社	世界文化社	日本漢字能力検定協会
岩波書店	さ・え・ら書房	セブン&アイ出版	日本経済新聞出版社
インプレス	作品社	創元社	日本実業出版社
WAVE 出版	産業図書	増進堂・受験研究社	日本出版社
潮出版社	三オブックス	第三文明社	日本スポーツ企画出版
柘出版	三省堂	大修館書店	日本文芸社
NHK 出版	サンマーク出版	大日本図書	農山漁村文化協会
エムオン・エンタテインメント	産経総合研究所経営書院	ダイヤモンド社	白泉社
旺文社	CQ 出版	大洋図書	博文館新社
大泉書店	実業之日本社	大和出版	博友社
宙出版	実務教育出版	大和書房	ぴあ
オーム社	じほう	高橋書店	PHP 研究所
オレンジページ	集英社	竹書房	ビーエル出版
音楽之友社	住宅新報社	辰巳出版	ひかりのくに
海竜社	主婦と生活社	玉川大学出版部	ひさかたチャイルド
化学同人	主婦の友社	淡交社	日之出出版
学研ホールディングス	小学館	筑摩書房	白夜書房
風間書房	祥伝社	地人書館	評論社
KADOKAWA	少年画報社	チャイルド本社	フォレスト出版
角川春樹事務所	昭文社	中央経済社	福音館書店
金子書房	神宮館	中央公論新社	富山房
河出書房新社	新興出版社啓林館	中日新聞社広告局	扶桑社
かんき出版	新星出版社	汐文社	双葉社
	新潮社	デアゴスティーニ・ジャパン	ブティック社

プレジデント社
 フレーベル館
 文英堂
 文化学園文化出版局
 ぶんか社
 文溪堂
 文芸社
 文藝春秋
 文理
 平凡社
 ベースボールマガジン社
 ベストセラーズ
 ベネッセコーポレーション
 ベレ出版
 法学書院
 法研
 芳文社
 ポプラ社
 ほるぷ出版
 毎日新聞社出版局
 マガジンハウス
 マキノ出版
 三笠書房
 みすず書房
 光村教育図書
 ミネルヴァ書房
 モーターマガジン社
 有斐閣
 吉川弘文館
 リイド社
 リクルートコミュニケーションズ
 理論社
 ワニマガジン社
 (出版社 188 社)

取次会社

大阪屋
 協和出版販売
 栗田出版販売
 鯉谷書店
 三和図書
 中央社
 東京即売
 トーハン
 日教販

日本雑誌販売
 日本出版販売
 日本出版貿易
 日本地図共販
 博文社
 (取次会社 14 社)

書店

旭屋書店
 今井書店グループ
 大垣書店
 オリオン書房
 紀伊國屋書店
 金港堂
 三省堂書店
 須原屋
 八文字屋
 丸善CHIホールディングス
 有隣堂
 リプロ
 (書店 12 社)

書店組合

北海道書店商業組合
 青森県書店商業組合
 岩手県書店商業組合
 宮城県書店商業組合
 茨城県書店商業組合
 栃木県書店商業組合
 群馬県書店商業組合
 埼玉県書店商業組合
 神奈川県書店商業組合
 愛知県書店商業組合
 滋賀県書店商業組合
 京都府書店商業組合
 大阪府書店商業組合
 兵庫県書店商業組合
 鳥取県書店商業組合
 広島県書店商業組合
 愛媛県書店商業組合
 福岡県書店商業組合
 佐賀県書店商業組合
 沖縄県書店商業組合
 (書店組合 20 組合)

教科書供給所

北海道教科書供給所
 群馬県教科書特約供給所
 神奈川県教科書販売
 愛知県教科用図書印刷業務組合
 (教科書供給 4 社)

一般

愛知陸運
 NTT アド
 オー・アイ・エム・センター
 お茶の水商事
 活字文化推進会議
 カンダコーポレーション
 共同印刷
 共立速記印刷
 近代美術
 工藤出版サービス
 光和コンピューター
 齋藤商店
 出版共同流通
 生命保険協会
 総合教育センター
 大日本印刷
 太陽印刷工業
 ダイワハイテックス
 手島梱包輸送
 天龍運輸
 電通
 東販自動車
 トーハン従業員組合
 図書館流通センター
 凸版印刷
 日販コンピュータテクノロジー
 日本出版販売労働組合
 日本図書普及
 博報堂
 藤川紙業
 文化産業信用組合
 三井住友銀行神田法人営業第一部
 三菱東京 UFJ 銀行神田支店
 八木書店
 りそな銀行九段支店
 (一般 35 社)

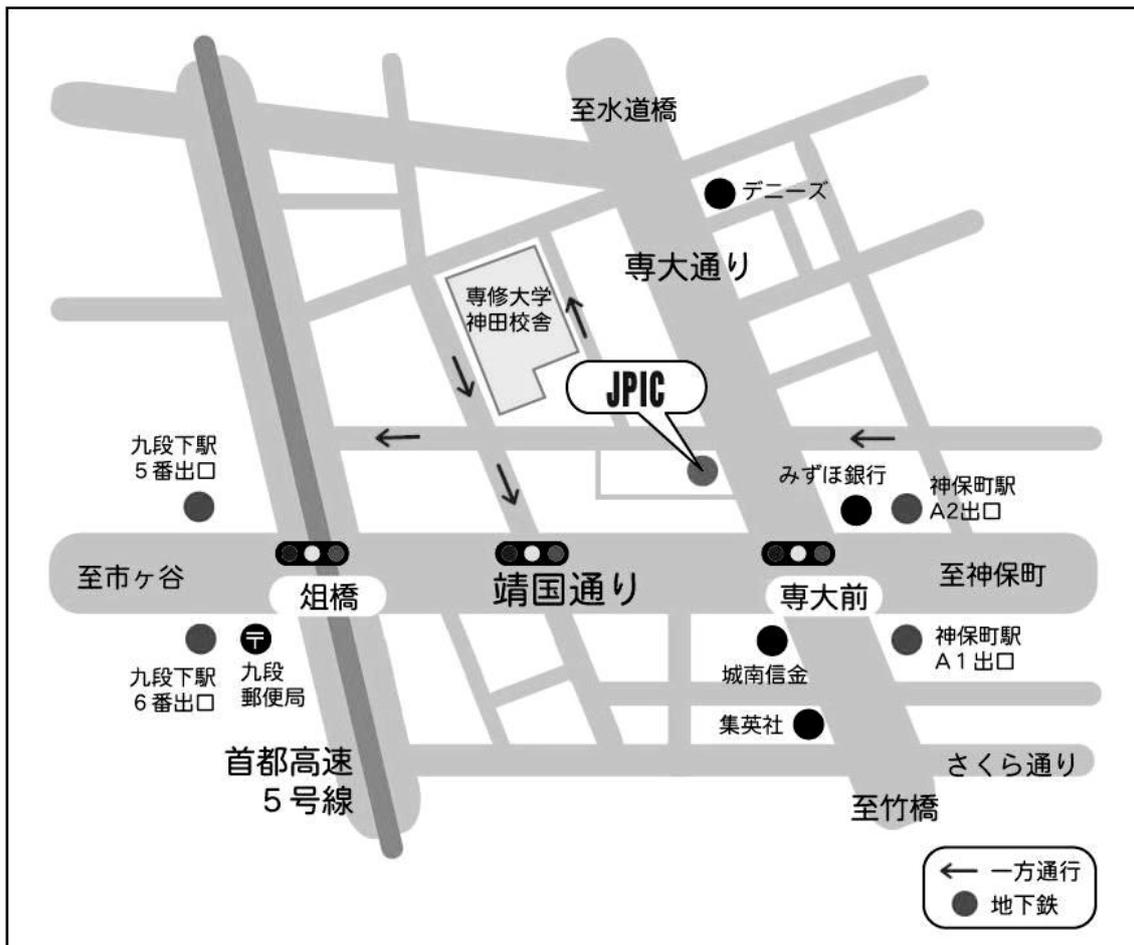
関係団体

出版健康保険組合
 日本児童図書出版協会
 日本出版取次協会
 日本書店商業組合連合会
 (関係団体 4 団体)
 以上、277 社

出版社 188 社
 取次会社 14 社
 書店 12 社
 書店組合 20
 教科書 4
 一般 35
 関係団体 4

財団案内図

- 名 称 一般財団法人出版文化産業振興財団
■所在地 〒101-0051
東京都千代田区神田神保町 3 丁目 12 番地 3 神保町スリービル 8 階
TEL.03-5211-7282 FAX.03-5211-7285
<http://www.jpica.or.jp/>



交 通

- 九段下駅 6番出口 徒歩 5 分 (地下鉄/半蔵門線・東西線 都営/新宿線)
神保町駅 A1 出口 徒歩 2 分 (地下鉄/半蔵門線 都営/新宿線・三田線)
水道橋駅 西出口 徒歩 7 分 (J R/総武線・中央線)
※ 1 階が CVS「サンクス」のビルです。

平成 27 年度収支報告書及び財産目録

貸借対照表

正味財産増減計算書1

正味財産増減計算書2

正味財産増減計算書3

財産目録

収支計算書1

収支計算書2

収支計算書3

収支計算書4

財務諸表に関する注記 1

財務諸表に関する注記2、収支計算書に対する注記1

公益目的支出計画

監查報告書

平成 28 年度事業計画並びに予算

1. 生涯学習事業

①「JPIC 読書アドバイザー養成講座」開講

平成5年のスタート以来、「読書と生涯学習をコーディネートする」人材の育成を目的に毎年開講している。第24期を受講生100名、修了聴講生若干名で開講する。

②JRACの活動協力

修了者の自主運営組織である「JPIC 読書アドバイザークラブ (JRAC)」の活動を側面よりサポートする。学習会や読書関連催事の共催も検討する。

③絵本・読みきかせ・読書ボランティア・中高生向け 各種読書講習会

「JPIC 読みきかせサポーター講習会」、「JPIC 読みきかせサポーター実践講座 グループワーク編」、10代向け読書会「作者と語ろう！」など計36回を計画。子どもゆめ基金助成事業。

④さまざまな層への読書アプローチ

- ・「辞書プロジェクト」として、辞書を切り口とした読書推進事業を関係各社とともに展開。子どもゆめ基金助成事業としてイベントを開催予定。
- ・夏目漱石没100年記念事業として「ゆかいに漱石～100年読まれ続ける魅力を探る」を実施。子どもゆめ基金助成事業としてイベントを開催予定。
- ・「大学生のよみとも倶楽部」（大学生協などとの共催）を年1～2回程度。
- ・主にJPIC 読書アドバイザーと協力した新たな読書推進活動の取り組みを検討する。

2. 調査研究事業

①書店活性化・デジタル化研究

関係省庁・団体などとの協力で、JPICとしての役割を積極的に果たす。また、消費税増税対応の販売促進策等を提案する。

②関係機関や在日外国機関との協力事業

消費税軽減税率獲得への取り組みや、対諸外国向けの出版活動の展開について検証、実践を目指す。

3. 情報提供事業

①JPIC NEWS LETTER

賛助会員をはじめ、関係各方面にJPICの活動を案内・報告することを目的に、月1回程度発行。

②ホームページ運用、メールマガジン発行

読書関連催事等の情報提供ツールとして活用。メールアドレス管理「読書ボランティア」15,000件を目標に促進。メルマガ会員を増加させ、他事業でのDM費の一層の減少を図る。

③「この本読んで！」発行

平成13年11月創刊、季刊（第59～62号、5・8・11・2月末）、9,500部発行。

4. 交流協力事業

①地域読書環境整備事業

福島県飯舘村、大阪市東淀川区等での協力事業を展開する。
また、「読書教育」「本・読書で町おこし」などの地域ぐるみの読書活動をサポートしていく。

②「書店大商談会」への協力

第三回「北海道書店大商談会」（9月6日、札幌市にて開催予定）、第七回「書店大商談会」（10月4日、文京区にて開催予定）、「BOOK EXPO 2016」（11月8日、大阪市にて開催予定）の事務局として協力。

③東日本大震災復興協力事業

JPICとして、継続的に東日本大震災の支援活動を実施する。

5. 受託事業・業務等

①各社・団体の読書普及事業への協力

「講談社全国訪問おはなし隊」など、団体・企業の読書推進への協力、各種催事での図書販売 など。

②「スミセイおはなしひろば」への協力

平成24年度に全国一巡を完了。2巡目、2地域／福島県、愛媛県での実施。

③朝日新聞 読書推進事業への協力

朝日新聞社が主催する「オーサー・ビジット」（今年度は6回開催）「地球教室」などに協力。

⑤第50回「造本装幀コンクール」への協力

日本書籍出版協会と日本印刷産業連合会が主催する「造本装幀コンクール」に協力する。

⑥生命保険協会「読みきかせによる“家族のきずな”推進事業」への協力

生命保険協会公益事業「読みきかせによる“家族のきずな”推進事業」の第3期3ヵ年の3年度目に協力。講習会を3年で全国2周開催する。

⑦「21世紀活字文化推進プロジェクト」協力

読売新聞社が主管する「21世紀活字文化プロジェクト」に協力する。大学生を中心とした、青年層への活字文化推進活動で協力を検討。

⑧内閣府平成27年度国際広報「JAPAN LIBRARY」への協力

26年度に開始した、＜日本の魅力発信に資する書籍の翻訳出版事業＞に協力する。今年後は14～17タイトルを発行予定。

収支予算書1

収支予算書2

収支予算書3

収支予算書4

定 款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、一般財団法人出版文化産業振興財団（英文名 Japan Publishing Industry Foundation for Culture。略称「JPIC」）と称する。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都千代田区に置く。

2 この法人は、理事会の決議によって従たる事務所を必要な地に置くことができる。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、出版文化産業及び読書活動に係る生涯学習の推進、出版文化産業及び読書活動に関する調査及び研究、人材育成、情報の収集及び提供等を行うことにより同産業の振興を図るとともに、読書活動の推進をはかることにより、我が国経済社会の健全な発展・国民の生活文化の向上・青少年の健全育成に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 この法人は、前条の目的に資するため、次の事業を行う。

- (1) 出版文化産業及び読書活動に係る生涯学習の推進
- (2) 出版文化産業及び読書活動に関する調査及び研究
- (3) 出版文化産業及び読書活動に関する人材育成
- (4) 出版文化産業及び読書活動に関する情報収集及び提供
- (5) 出版文化産業及び読書活動に関する内外関係機関等との交流及び協力
- (6) 前各号に掲げるもののほか、本財団の目的を達成するために必要な事業

2 前項の事業は、日本全国及び海外において行うものとする。

第3章 資産及び会計

(資産の構成)

第5条 この法人の目的である事業を行うために不可欠な財産は、この法人の基本財産とする。

2 基本財産は、この法人の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならないが、基本財産の一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、あらかじめ理事会及び評議員会の承認を得なければならない。

(事業年度)

第6条 この法人の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(事業報告及び決算)

第7条 事業報告書及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を経て、定時評議員会に提出し、第1号及び第2号の書類についてはその内容を報告し、第3号から第5号までの書類については承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
- (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書

2 前項の書類のほか、監査報告を主たる事務所に5年間備え置くとともに、定款を主たる事務所に備え置くものとする。

3 この法人は、剰余金の分配を行うことができない。

第4章 評議員

(評議員)

第8条 この法人に評議員30名以上40名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第9条 評議員の選任及び解任は、評議員会の決議をもって行う。

(任期)

第10条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

2 任期満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。

3 第8条に定める評議員の員数が欠けた場合には、任期の満了又は辞任により退任した評議員は、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員に対する報酬)

第11条 評議員の報酬は、無報酬とする。

第5章 評議員会

(構成)

第12条 評議員会は、すべての評議員をもって構成する。

(権限)

第13条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）並びにこれらの附属明細書の承認
- (4) 評議員に対する報酬等の支給の基準
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分又は除外の承認
- (8) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第14条 この法人の評議員会は、定時評議員会及び臨時評議員会とする。定時評議員会は、毎事業年度の終了後3ヶ月以内に開催し、臨時評議員会は、必要に応じて開催する。

(召集)

第15条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が召集する。

2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び召集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決議)

第16条 評議員会の決議は、評議員（決議について特別の利害関係を有する評議員を除く。）の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、評議員（決議について特別の利害関係を有する評議員を除く。）の3分の2以上に当たる多数を持って行う。

- (1) 監事の解任
- (2) 評議員に対する報酬等の支給の基準
- (3) 定款の変更
- (4) 基本財産の処分又は除外の承認
- (5) その他法令で定められた事項

(決議の省略)

第17条 理事が、評議員会の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることのできる評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の評議員会の決議があ

ったものとみなす。

(報告の省略)

第18条 理事が、評議員の全員に対し、評議員会に報告すべき事項を通知した場合において、その事項を評議員会に報告することを要しないことについて、評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その事項の評議員会への報告があったものとみなす。

(議事録)

第19条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより議事録を作成し、議長並びに出席評議員及び理事の各1名がこれに記名押印するものとする。

第6章 役員等

(役員)

第20条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 20名以上 30名以内
 - (2) 監事 3名以内
- 2 理事のうち1名を理事長とし、4名を副理事長、1名を専務理事、6名を常務理事とし、2名以内を業務執行理事とすることができる。
- 3 前項の理事長をもって、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表理事とする。

(役員を選任)

第21条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

- 2 理事長及び、副理事長、専務理事、常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。
- 3 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第91条第1項第2号に定める業務執行理事は理事会の決議によって理事の中から選定し、うち1名は専務理事とする。

(理事の職務及び権限)

第22条 理事は理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 理事長は、この法人を代表し、法人の業務を執行し、専務理事及びその他の業務執行理事は、理事会において別の定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。
- 3 理事長、専務理事及びその他の業務執行理事は、毎事業年度に4ヶ月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

- 第 23 条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。
- 2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

- 第 24 条 理事の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。
- 2 監事の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。
- 3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了するときまでとする。
- 4 理事又は監事は、第 20 条に定める定数に足りなくなるときは、辞任又は任期満了後においても、新たに選任された者が就任するまでは、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員改選)

- 第 25 条 理事及び監事が次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。
- (1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(報酬等)

- 第 26 条 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、常勤の理事及び監事に対しては、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬等として支給することができる。

(役員損害賠償責任の免除)

- 第 27 条 この法人は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 198 条において準用する同法第 114 条第 1 項の規定により、理事又は監事が任務を怠ったことによる損害賠償責任を、法令に規定する額を限度として理事会の決議により免除することができる。

(外部役員責任限定契約)

- 第 28 条 この法人は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 198 条において準用する同法第 115 条第 1 項の規定により、外部理事又は外部監事との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任の限定契約を締結することができる。
- なお、責任の限度額は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 198 条において準用する同法第 113 条第 1 項の規定による最低責任限度額とする。

(顧問)

- 第 29 条 この法人に、顧問 5 人以内を置くことができる。
- 2 顧問は、学識経験者又はこの法人に功労のあった者のうちから、理事会の推薦により、理事長が委嘱する。また解任については理事会において決議する。
- 3 顧問は、この法人の運営に関して理事長の諮問に答え、又は理事長に対して意見を述べる。
- 4 顧問の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。
- 5 顧問の報酬は無償とする。
- 6 顧問の選任及び解任は、理事会において決議する。

第 7 章 理事会

(構成)

- 第 30 条 理事会は、すべての理事で構成する。

(権限)

- 第 31 条 理事会は、次に掲げる職務を行う。
- (1) この法人の業務執行の決定
 - (2) 理事の職務の執行の監督
 - (3) 理事長及び業務執行理事の選定及び解職

(召集)

- 第 32 条 理事会は、理事長が招集する。
- 2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。
- 3 理事会を招集する者は、理事会の日時、場所、目的、その他必要な事項を記載した書面をもって、理事会の日の 1 週間前までに、各理事及び各監事に対してその通知を発しなければならない。
- 4 前項の規定にかかわらず、理事会は、理事及び監事の全員の同意があるときは、召集の手続きを経ることなく開催することができる。

(議長)

- 第 33 条 理事会の議長は、理事長とする。

(決議)

- 第 34 条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
- 2 前項の規定にかかわらず、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 197 条において準用する同法第 96 条の要件を満たしたときは、理事会の決議があ

ったものとみなす。

(決議の省略)

第 35 条 理事が、理事会の決議の目的である事項について提案をした場合において、その提案について、議決に加わることのできる理事全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなすものとする。ただし、監事が異議を述べたときは、その限りではない。

(報告の省略)

第 36 条 理事又は監事が理事及び監事の全員に対し、理事会に報告すべき事項を通知した場合においては、その事項を理事会に報告することを要しない。
2 前項の規定は、第 22 条第 3 項の規定による報告には適用しない。

(議事録)

第 37 条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に署名し、又は記名押印する。

第 8 章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第 38 条 この法人は、評議員会の決議によって定款を変更することができる。
2 前項の規定は、この定款の第 3 条、第 4 条及び第 9 条についても適用する。

(解 散)

第 39 条 この法人は、基本財産の滅失によるこの法人の目的である事業の成功の不能その他法令で定められた事由により解散する。
2 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 5 条第 17 号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第 9 章 公告の方法

(公告の方法)

第 40 条 この法人の公告方法は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法とする。

第 10 章 事務局

(事務局)

第 41 条 この法人に事務局を置く。事務局の組織及び運営に関して必要な事項は理事会で定める。

第 11 章 雑 則

(委 任)

第 42 条 この定款に定めるもののほか、この法人の運営に必要な事項は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

附 則

- 1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第 121 条第 1 項において読み替えて準用する同法第 106 条第 1 項に定める一般法人の設立の登記の日から施行する。
- 2 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第 121 条第 1 項において読み替えて準用する同法第 106 条第 1 項に定める特例民法法人の解散の登記と一般法人の設立の登記を行ったときは、第 6 条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。
- 3 この法人の設立当初の事業年度は、第 6 条の規定にかかわらず、この法人の成立の日から平成 25 年 3 月 31 日までとする。
- 4 この法人の最初の理事長は肥田美代子とする。
- 5 この法人の最初の評議員は、次に掲げる者とする。

秋田貞美	坂井宏先	江崎直利
柳楽節雄	斎藤健司	田江泰彦
井上一夫	齊藤隆巳	片岡 隆
今村正樹	伊藤 聡	小泉忠男
関谷幸一	谷川直人	亀井忠雄
高納勝寿	加藤真由美	石川博史
清水康史	金田 徹	北島義斉
増田義和	岩本幸子	大湊 満
大塚 茂	和田年正	濱田博信
鈴木一行	森岡忠弘	
鹿谷史明	外山義朗	
岩渕 徹	山去賢二	
溝口明秀	土屋正三	
伊藤富士男	川島孝文	
大橋一弘	筒井正博	

禁無断転載

平成 28 年 6 月

発 行 一般財団法人出版文化産業振興財団
東京都千代田区神田神保町 3 丁目 12 番地 3

電 話 03 (5211) 7282

印 刷 太陽印刷工業株式会社